

海外安全対策情報（ポルトガル・2024年10月～12月）

1 治安情勢等及び邦人被害の状況

(1) 治安情勢等

ア 2023年の犯罪発生状況

2023年の一般犯罪認知件数は371,995件で、前年比8.2%（28,150件）増加し、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年と比較すると10.8%増加しました。

凶悪重大犯罪の認知件数は14,022件で、犯罪全体に占める割合は3.8%です。前年比では5.6%増加しましたが、2019年と比較すると2.6%減少しました。

認知件数が増加した犯罪の中では、特に路上強盗及びひったくり強盗が目立ち、凶悪犯罪全体の52%を占めています。

増加傾向が目立った犯罪としては、クレジットカード等の不正使用が前年比67%（10,386件）、麻薬・薬物の密売が20.1%（7,550件）、商業施設等に対する窃盗が16.7%（8,279件）それぞれ増加しました。

イ 2024年の犯罪発生状況

(7) 警察官による発砲事件

2024年10月21日、アマドーラ市内コーヴァ・ダ・モウラ街区で警戒中の治安警察庁（PSP）のパトカーが不審な車両を発見して停車を命じたが、車を運転していた男性（カーボベルデ国籍）がPSPの指示に従わず抵抗したため、警察官によって射撃されたとする事件が報道されました。

同報道後、PSPの説明に対して市民団体が「男性は非武装であったにも関わらず、警察官は2発発砲した。」と証言し、事件の調査を要求しました。また、当該事件が発生したアマドーラ市のほか、同事件への抗議行動としてオエイラス市、シントラ市、ローレス市、リスボン市、セイシャル市、カスカイス市などでゴミ箱、バス、車等への放火、公道での爆竹、投石等の暴動が数日間にわたり発生しました。

(4) リスボン市内マルティンモニス地区の「特別犯罪防止作戦」

治安警察庁（PSP）リスボン首都圏本部は、2024年12月19日、武器と違法薬物の摘発を目的とした「特別犯罪防止作戦」を実施し、関係者2人を逮捕、商業施設2件を検挙、大麻樹脂、偽造パスポート、盗難被害品、現金約4,600ユーロのほか証拠品約100点を差し押さえました。

(ウ) 逃亡受刑者の続報

2024年9月7日、アザンブージャ市内アルコエントレ地区にあるヴァレ・デ・ジュデウス刑務所から強盗や組織犯罪などの罪で収監されていた受刑者5名（ポルトガル人2名、アルゼンチン人1名、英国人1名、ジョージア人1名）が逃走しましたが、同年12月10日時点で、3名が逮捕されています。逃亡者残り2名の関連情報に触れた際には112番に通報するよう警察が協力を求めています。



(イ) 強制的性交事件が増加傾向

2024年1月から9月末までの間に、司法警察庁（PJ）は強制的性交の被害申告521件を受理したと発表しました。そのうち、344件の被害者は女性で、177件の被害者は男性でした。1日平均2件の強制的性交事件が発生、毎月38人の女性が被害に遭っており、男性の被害者も増えています。被害者の中には未成年者も含まれています。

(オ) TVDE 内にかかる強制的性交事件

Uber や Bolt といった TVDE（ライドシェアサービス）内で強制的性交事件が相次いでいると主張する内容を公開するテレグラム・グループやツイッター・アカウントがありますが、PSP は、2024年6月の時点において TVDE 内で発生した強制的性交の被害届はないと説明しました。

(カ) インターネットを悪用した詐欺の現状

2023年における詐欺の認知件数は47,500件超でしたが、2024年の認知件数は更に上回るものと見られ、PSP は親族等になりすました詐欺（オレオレ詐欺）のほか、自動車や不動産、ローンにかかる詐欺について注意喚起を行っています。

(キ) サイバー攻撃による個人情報の流出

11月14日から19日にかけてアルガルベ大学がサイバー攻撃に遭い、職員や学生などの個人情報が流出しました。

(ク) 交通事故の傾向

2024年1月から10月末日までにPSPは49,012件の交通事故を記録し、このうち死者は69人（昨年同期比5人増）で、重傷者は672人（昨年同期比2人減）、軽傷者は15,153人（昨年同期比473人増）であったと発表しました。またPSPによれば、2024年初頭から12月15日までにリスボン県内で発生した交通事故は約1万5,000件で、事故全体の3分の1がリスボンで発生しており、特に横断歩道での事故が多発しています。

(2) 邦人被害

2024年10月から12月の間、大使館に届出があった邦人の犯罪被害件数は11件で、いずれも窃盗の被害でした。

リスボン市内アルファマ地区、セー地区、バイシャ地区、バイホ・アルト地区、ベレン地区及びポルト市内において発生しており、背中に担いでいるバックパックやショルダーバッグのファスナーを開けられ、財布や旅券を抜き取られています。人の多い場所では、歩いていても鞆は正面で持つなど盗難対策をしましょう。

路上や観光スポットはもちろん、レストランやホテルのロビーにも窃盗グループが常駐し、犯行の機会を窺っています。路上演奏を聴く際、写真を撮影する際、チケットを購入する際、食事の際には、手荷物を常に視界に入れて、被害に遭わないよう気をつけて下さい。

- ア 10月 すり6件
- イ 11月 すり3件
- ウ 12月 すり2件

2 報道された主な凶悪犯罪

(1) 殺人

- ・ 10月2日、リスボン市内ペーニャ・ダ・フランサ地区とサンタ・アポローニャ地区に挟まれた地域にある理髪店の店主と店主の知り合いの夫婦の3名が男に拳銃で撃たれて死亡しました。
- ・ 10月30日、ベルモンテ市内で40代男性が知人の30代男性と口論になった末に散弾銃で撃たれて死亡しました。
- ・ 12月27日、ビゼウ市パラシオ・ド・ジェロ・ショッピングにおいて男性1名が発砲し、1名が死亡、2名が負傷しました。

(2) 強盗

- ・ 11月27日、ラゴス市ルース海岸地区にあるマンションに5人組が押し入り、室内にいたドイツ国籍の男性を脅して、およそ2,000ユーロの金品を奪って逃走しました。被害に遭ったマンションは民泊として利用されていました。
- ・ 12月26日、カスカイス市カルカベロス駅近くを歩いていた男性が突然現れた2人組に殴られるなどして転倒し、意識を失っている間に携帯電話や鍵などを奪われました。

(3) すり

- ・ 10月25日、リスボン市内バイシャ地区で40代女性2人組が男性から財布などを抜き取り、被害カードで現金を引き出したとして逮捕されました。
- ・ 10月29日、26歳から30歳までのルーマニア国籍の男女3名が、リスボン市内ベレン地区発見のモニュメント近くで外国人観光客から財布を盗んだことで逮捕されました。

(4) その他

- ・ 12月21日21時半過ぎ、リスボン市内パルケ・ダス・ナソンイス地区Pimenteira通りで、犬を散歩させていた男性が若者グループに囲まれ拳銃を突きつけられました。男性は隙を見て逃げ出し、巡回警備中だったPSP警察官に助けを求め、通報を受けたPSPは現場近くの商業施設で同グループを発見し、20歳代の若者7名を拳銃や銃弾などの不法所持で逮捕しました。
- ・ 12月26日、アマドーラ市内コーヴァ・ダ・モウラ街区のカフェの前にいたグループに向かって、乗用車から何者かが発砲し、2名が重軽傷を負って病院で手当を受けました。
- ・ カスカイス市内の海岸線でワゴン車の移動販売を行っていた20代男性が20代女性に薬物入りの飲料を販売し、意識が混濁している女性に性的暴行をして逮捕されました。

3 テロ・爆弾事件発生状況

ありません。

4 誘拐事件発生状況

外国人を標的とした政治目的、身代金目的等誘拐事件の把握はありません。

5 対日感情
良好です。

6 日本企業の安全に関する諸問題

外国籍（日本資本を含む）企業が、犯罪に巻き込まれた情報の把握はありません。